

ロータリーの夢を 追いつけよう

1998-99年度 国際ロータリーのテーマ

第2560地区
ガバナー——富山 富一
会長——細井 増雄
会長エレクト——長谷川 有美
副会長——斎藤 弘文
幹事——西山 徳厚
副幹事——藤田 紘一
S A A——高森 章仁
副 S A A——五十嵐 寿一

例会日——毎週水曜日 12:30～
例会場及び——三条市旭町2-5-10
事務局——三条信用金庫本店内
例会場——TEL 35-3311
事務局——TEL 35-3477
FAX 32-7095

本日出席会員数	77名中 59名
先々週出席率	84.50%

ビジター

三条北より 吉川吉彦さん

ゲスト

三条小学校 校長 木村秀男殿

先週のメイクアップ

7/19 新潟県会長 幹事会へ
五十嵐総一さん、西山徳厚さん

会長挨拶



斎藤弘文副会長

細井会長がよんどころない事情から欠席のため、副会長の役目から挨拶をさせていただきます。本日は北クラブさんようこそおいでいただきありがとうございます。ごゆっくりお過ごし

いただきたいと思います。

先般らい工業会として刃物問題に取り組みまして、運動をおこしているわけでありまして、と申すのは、この2月に学校内で刃物による殺傷事件が発生いたしまして、刃物は危険なものであるから、持たしちゃいかん。売っちゃいかん。という通達が出たわけでありまして、そのために、刃物を作っている業者が大変な打撃を受け、死活問題になるような生産量、販売量も激減する事件がおきたわけでありまして。

工業会の組合員の中に多くの刃物を作っている方がおられるわけで何とか打開しなければいけない。そのためには刃物について、小さいときから正しく慣れ親しんでいただくことで、そのような事件は防げるのではないかと学校に伺いまして、教育問題として刃物について取り組んでいただくための運動をおこさせていただきました。

市内の小中学校22箇所訪問させていただきました。いろいろ校長先生からご指導をいただいたわけですが、三条小学校の木村先生からも大変なご指導をいただいたわけでありました。あらためまして御礼申し上げます。

その時にいろんな話しを受け賜ったわけですが、ある学校で伺った話しであります。教育の一環として裸足で運動をさせることとして6月から実施したところ、父兄からの廃止要望で止めることになったとの話しでありました。何故父兄が反対するかと聞きましたら、運動場が大変荒れているとのことでありまして、荒れているところで裸足は危険であるから止めて下さいとのことでした。

運動場が何故荒れているかといいますと、PTA、授業参観日に父兄が車でくるわけで、運動場を駐車場にするわけでありました。運動場に輪立ちができてしまう。そこで子供たちが遊ぶわけで危険であるとのことであります。

子どもが学校に来るのに歩いて来るのに、父兄は車で来る。これが実態であります。教育現場の人たちは、一生懸命立派な生徒を育成しようと努力しています。しかし、その気持ちを駄目にしてているのは親ではないかと疑問を持った22箇所の学校訪問でありました。PTA等学校の行事に参加する機会のある方については、自分の子どもが歩いて通う学校に行くことがある時は、是非歩いて行っていただきたいとお願いいたしまして挨拶とさせていただきます。

幹事報告

西山徳厚幹事

◎三条グリーン協議会より

五十嵐川クリーン大作戦実施にかかるご協力のお礼状がとどいております。

8月のお祝い



◎会員誕生祝

1日 渡辺宏策さん、14日 清水良一さん
16日 五十嵐総一さん、26日 内山辰策さん

◎夫人誕生祝

7日 五十嵐きみ子さん(昭一)
12日 渡辺ヒロさん(宏策)
12日 五十嵐央子さん(寿一)
14日 近藤律子さん(雄介)
18日 石橋久子さん(育於)
26日 古沢美代子さん(富雄)
27日 佐野美知子さん(勝栄)
28日 日戸英子さん(平太)
31日 五十嵐宏子さん(総一)

◎100%出席賞(年間)

41年 鈴木宗資さん、18年 五十嵐総一さん
7年 細井増雄さん

ニコニコBOX



齋藤弘文さん

木村校長先生を心より歓迎申し上げます。先般の工業会で取り組んでおります刃物問題には御指導を賜り本当に有難う御座居ました。

藤田説量さん

新しい年度初めて出席します。

五十嵐昭一さん

三条小学校校長、木村先生の卓話に期待します。

広岡豊作さん

木村校長先生には伴と孫達がお世話になっております。

渋谷正一さん

木村先生の卓話、よろしく申し上げます。ごめんどうかけました。

山浦日出夫さん

木村校長先生を歓迎申し上げます。

藤田紘一さん

校長先生の卓話、子供の教育の参考にさせていただきます。

川瀬康裕さん

ホメオパシーの勉強しました。新しい出会いに感謝して。

近藤雄介さん

7/20下田にて「榎を育て国蝶オオムラサキを守る会」第1回株主総会に参加して来ました。久し振りに童心に帰った気持でした。

菊池 渉さん

7月18日、浄円寺本堂の上棟式を無事終えることができ、喜んでます。小出さんのカンオケ入りを祝しまして。

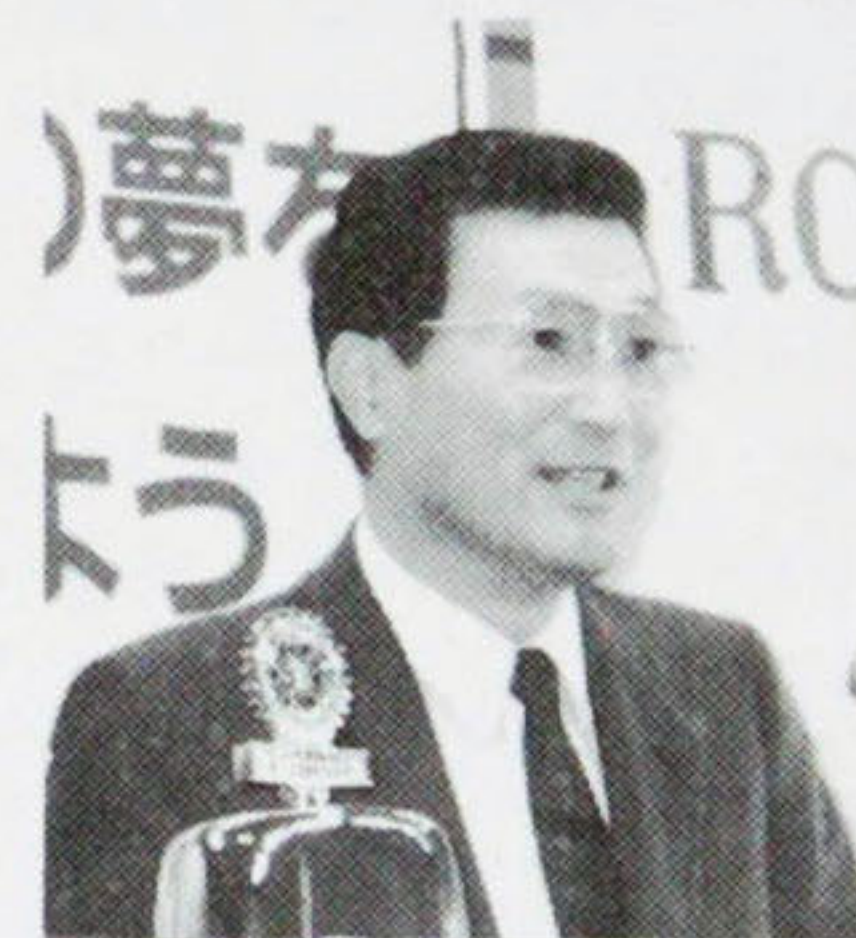
7月22日分 ￥ 11,000

今年度累計 ￥ 92,000

卓 話

「斜めから見た学校事情」

三条小学校校長 木村秀男先生



三条小学校の木村でございます。平素から三条市の学校の諸活動についてご理解とお力ぞえをいただき感謝申し上げます。挨拶がわりにさせていただきます。

教育論ではなくて、学校ということについて、ちょっと違った角度からご理解をさせていただき、今後のご支援をお願いしたい。

学校と申しますと、敷居が高いとか、入りにくいとか、先生は付合いにくいとか、いろいろお話しを頂戴いたします。

学校という職場は、特殊な環境であります。子どもが相手であります。当然であります。戒めなければいけないことではありますが、端的に申しあげますと、ついつい横柄になる。殿様になってしまうことがあるわけで、校長としても、職員に喚起を促すところでもあります。お客さまである子どもが学校に来ないなどということは考えもしないことでもあります。夜寝る時に、また翌日学校に着いて、子どもが何人学校に来ているのかと考えることはないわけでありまして。子どもは当然学校に来るもんだと思っているわけでありまして、学校を子どもが休むと休んでいる子どもが悪いと、何があったんだということになりやすいわけでありまして。

我々教員には年次休暇がありますが、子どもには年次休暇がありません。子どももこのストレスの多い世の中、たまには鋭気を養うために休みを

取りたいと思ったりもするのかとも思いますが、子どもは学校へ来るのが当然。

明治5年の教育制度制定後120数年になります。教育は義務教育というところが大きく言われて、それがいろんな意味で影を落とし、また、陽をあてている面もあるわけでありまして。

こどもは教育を受けるのは義務である。私たちはその義務に応じてやるために仕事をしているんだという意識を持ってはいけないわけでありまして。しかし、長い間に態度に、行動に出てしまいはしないか。不登校の問題とかに出てまいりまして、学校も殿様商売では通用しなくなってきています。教育は権利である。権利教育に変わってきているわけでありまして。どうしても義務教育から抜け出せないでいるのが実状であります。これからは、権利という面が大きくなっていくのが学校現場はどう対応していくのかが問われてくることとなると思います。

学校選択の自由とか。担任の選択とか、いろんな問題が出て来ると思います。子どもを相手にすることから、ついつい横柄になってしまいます。先生が専制になってしまいます。教員は、うっかりしていますと支配者になってしまいます。子どもを命令する。私益語が乱発される。私はそのことを非常に警戒しているわけでありまして。それに対する違和感がともすると無くなっていく。校長としては非常に気をつけているところでありまして。

権威で子ども達を敬服させるのは良いのですが、権力を持って屈服させる。子どもを大切にするとする言葉を使いながら、逆に子どもへの媚び、慣れ慣れしいという慣れになってしまっていて、本当の意味での先生と子どもの関係がおかしくなってしまう。指導をスポイルしてしまう面がある。また、教員はよく教え子という言葉を使うが、私は担任をしていましたとは言いますが、教え子という言葉を使わないようにしている。そんな言い方をするのは、子どもを相手に仕事をしてきている長年の澁と誇りがこびりついて取れなくなってしまうことからであり、警戒をしています。

教員の世界は、横並びの社会であります。縦系列はありません。管理職は校長と教頭。後は教諭です。公務分掌としての主任制度はありますが、あくまでも分担の主任であり、職階、職権は無いのであります。それぞれが学級担任として一つのたいへんな責任を持っているわけでありまして。新前教師であっても、ベテラン教師であっても学級担任として、責任と結果において差があってははいけないわけでありまして。

学級担任としては、同等、同列の責任を負うわけでありまして。縦系列の命令がないわけでありま

すし、そこがまた難しいところでもあります。仕事をする主となる教室に学級担任が入りますと、他からの監視が無い職場、監督者のいない職場になるわけでありませぬ。

しかし、その反面、一人一人の責任が重くもなります。といいますのは、教師生活5年であろうと20年であろうと、生徒の資質の維持向上といひますか、教室の運営について、他の教室との格差が生じないようにしなければなりません。従って、一人一人に責任があると同時にプライドを持ってもらいたいし、研鑽に励んでもらわなければいけません。

さて、校長の仕事ですが、簡単に申しあげますと雇われマダムであります。要望はできますが人事権はありません。そのうえ金がない。予算できめられている。もちろん交際費はありません。会合に出るにも教諭とのコミュニケーションも自腹であります。校長の責任で金を使って何かやってみたいと思ってもできない。それから職員の仕事現場が見えにくい。与えられた条件下で校長が職員を信頼し、そして普段の指導の中で説得力を持ってあたることができるかということになります。

校長は服務、監督責任が重い。先般、教員のテレクラ問題が発生し、懲戒免職になりましたが、校長もかなりの処分を受けているはずでせぬ。校長として、私生活についてまでの監視はむずかしいわけでありませぬが、職員との語らいの中でやっていかなければいけません。

それから、職員が次々と交代していくということでもあります。1校最高7年との決まりがあります。だいたい3年で異動であります。学校経営を

連続し、継続させていくことは難しい面があります。また、教員には時間外勤務手当はありません。運動会・修学旅行・文化祭以外は振り替え授業はできません。従って、日曜日の対外試合とか外部の行事に参加出場する。教員が付いていきますがボランティアであります。職員の使命感とボランティアに頼っているわけであり、校長は絶対にワンマンでは務まらない。校長と職員の信頼関係がなければいけません。

最後に学校が変わってきている。変わっていかなければいけません。

また、2002年に新しい教育制度が実施されます。学校はまったく家庭と逆転している面があります。かつては、家庭で泥遊びをさせたわけでありませぬが、学校でさせなくてはいけません。学校は体験活動を行う場になった。ふたつめは、学校は人間関係を学ぶ場になったとすることを強調していかなければいけません。子供たちの孤立化という問題。人間関係が希薄になっているという社会状況があります。学校こそ人間関係を学ぶ場所にならなければいけません。マンツーマンの関係を学校は更に大切にしていかなければいけません。

最後に、学校には財政的裏付けが必要ということでもあります。中教審その他いろいろの答申がなされ、問題提起がされ、有り難い話しではありませぬが、財政的裏付けがないわけでありませぬ。

つまらない話しを申しあげて恐縮でございますが、教員も私どもも一生懸命に頑張っておるつもりではありませぬが、今後ともご理解とご指導ご協力をお願い申しあげます。本日は貴重なお時間を頂戴してありがとうございました。

例会案内

三条RC	8月5日例会	会員卓話
	8月12日例会	会員卓話

メイクアップをどうぞ

三条南RC	8月10日例会	会員卓話
	8月17日例会	休会
三条北RC	8月11日例会	会員卓話
	8月18日例会	会員卓話
加茂RC	8月13日例会	休会
	8月20日例会	会員卓話
燕RC	8月13日例会	休会
	8月20日例会	会員卓話
見附RC	8月13日例会	休会
	8月20日例会	会員卓話

編集後記

橋本内閣から小淵内閣へバトンタッチですが、一日も早い経済の回復期待いたします。气象台の梅雨明け宣言はいまだ出ませんが、連日の30度を越す暑い日が続きます。体調に気をつけて頑張りましょう。

